

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

2016年6月

医歯薬通信 *SANS FRONTIERES* vol.23

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

平成28年4月7日、第32回入学式が挙行されました。医歯薬コースも第14期生36名を迎え入れることが出来ました。

本校は昨年度、開校30周年記念式典が挙行され今年度が32年目となります。記念式典が挙行された翌年度でもありますので、新たなるステージへの第一歩という気持ちを持って、教職員一同臨んでいきたいと存じます。

新年度からのほぼ一年、生徒達は既に自分なりの行動計画の青図を描いていると思います。目標は入試に合格すること。その一点に向かっての戦略と戦術を練る。誰もが考えていると思います。心して欲しいのは、戦略を具体的な行動に落とし込む時、あまり詳細なプランを立てないことです。ザックリとしたものでよいと思います。そうしないと途中で息切れしてしまいます。中には、計画することが好きで、それに沿ってやってみたものの、早い生徒は半月もしないうちに、焦りばかりが募ったり、あるいは飽きてしまったりで、途中で投げ出してしまふ。そのような生徒はこれまでたくさん見てきました。

大事なことは、学校での授業には真剣に取り組むこと。それが基本です。そうすると、当然ながら予習・復習をしなければならないし、それをまず習慣化することです。

我々教職員はそのような生徒を全力でサポートし、導くことに全力を尽くします。

総合学習発表会

医歯薬コースでは、毎年2回、総合学習発表会を実施します。9月には2年生の研究発表がありましたが、3月5日は1年生が2年生の前で発表を行いました。

先輩たちの発表を参考にしながら、新聞や書籍、インターネットを利用して調べ学習を行い、パワーポイントで資料を作成しました。クラス内でプレ発表会をしてみて、他の人に伝えるために、見やすい資料を作



る工夫や、発声や視線にも配慮が必要なこともわかりました。

本番は、緊張しながら発表をしましたが、2年生がそれを熱心に聞き、積極的に質問してくれたため、活気ある発表会になりました。



千葉科学大・出張模擬授業

3月17日、現2、3年生を対象に千葉科学大学から、4人の先生をお迎えして大学出張模擬授業を開講し、生徒達は薬学系、細胞検査士、臨床工学技士、看護系の4講座から2講座を選択して受講しました。

薬学系では歴史上の人物の資料から仮説を立て、現在の薬学医療があれば史実が覆ったのではないかというお話に生徒は釘付けでした。また、細胞検査士に関するお話では、当時のテレビドラマで放映されていた『フラジャイル』の話題から徐々に専門性の高いお話をして頂きました。臨床工学技士に関するお話では、手術現場にいる臨床工学技士の仕事内容や機械操作のエキスパートとしての責任の重さややりがいを、看護系ではナイチンゲールの“アート”という表現が何を指すのか、どのような思考で現場に臨まなければならないのかをお話しして頂きました。

どの先生方も生徒に理解しやすく説明して頂いたことで、生徒個々の各専門職に対する知識、理解が深まったり、新たな価値観が加わったことが、生徒の感想文を読んでいてよくわかりました。医療従事者の中でも、専門性の高い分野のお話を聴けたことは生徒達にとってとても良い機会となったことは言うまでもありません。



救急救命講習会

3月28日と29日の2日に分けて、2年生医歯薬コース64名を対象に救急救命講習会が実施されました。最初に救急救命の重要性を学び、声掛けから心臓マッサージと人工呼吸を行いました。全員が心臓マッサージ30回と人工呼吸2回を3セットずつ行い、休憩を挟んでAEDの講習を受けました。続いて止血法と回復体位の説明がありました。いつ人は倒れてしまうか

分かりません。自分が動けば助かる命があるのかも知れません。しかし、実際その場に居合わせたら、「誰かがやってくれるのでは。」という気持ちが出てしまうのではないのでしょうか。最後に救急救命が必要な場面がDVDで紹介されました。野球部の生徒が練習中に倒れてしまい、命を落としてしまったケースでは現場の音声はAEDに記録されており、周囲の緊張感と混乱した様子を知りました。迷いやためらいがその人の生命に直接関わり、その家族の人生まで変えてしまうことを深く理解しました。この講習会を通じて、医療を志す私たちこそ経験を活かして命を救おうと「一歩踏み出す勇氣」が最も大切だと実感できました。(2年生男子)

北茨城地域医療見学

今年度の医師講演会で筑波大学医学医療系臨床医学域、横谷省治先生に講演していただきましたが、そのご縁で、北茨城市民病院附属家庭医療センターを見学させていただきました。

3月下旬、希望者は数名ずつ医療センターに行き、外来診療や受付や看護の業務を見学させていただきました。また、特に希望した生徒は訪問診療にも同行させていただきました。貴重な経験をすることができました。横谷先生、ありがとうございました。

医師はもちろん、病院のスタッフの仕事を間近で見ることで、生徒たちは医療に携わる上で大切なことを感じ取ることができました。「医師や看護師の方々が思いやりに満ちていました」(現2年女子)、「病気で不安になっている患者さんに笑顔で落ち着いて接し、患者さんの心情について考えることが大切だと感じました」(現2年男子)。「治療技術も必要ですが、患者さんとの信頼関係を築くためのコミュニケーション能力と熱意も不可欠だと学びました」

(現2年女子)。「地域医療の重要性がわかりました」(現2年男子) 医師や医療関係者を目指す気持ちも強くなったようです。

城南病院 1日医師体験

春季休業中に茨城県民主医療機関連合会城南病院において、本校生徒数名が1日医師体験に参加しました。実際に医療行為を行うことはできないため、医師の投薬の指示や血圧・血糖値測定、訪問診療等を見学しながら、患者さんと係わったようです。また、デイサービスの手伝いも経験し、共に体を動かす運動などをおこなったようです。今回の経験を通して、参加した生徒からは、「医療に携わる人はコミュニケーション力が必要なことを改めて感じました」という感想を多く聞くことができ勉強以外の大切なことも学んだようです。

日立さくらロードレース・ボランティア

4月10日、第16回日立さくらロードレースに医歯薬コース2、3年生の希望者がボランティアスタッフとして参加しました。私たちはゴールしたランナーの計測チップを回収する作業

を担当しましたが、ゴールするランナーが徐々に増えるのに連れて作業の大変さが一気に増してきました。そのような中で、ほとんどのランナーは「ありがとう」「お疲れさま」と声を掛けてくれました。一番疲れているはずのランナーから元気をもらっている、不思議な感覚もありましたが、人の役に立つことの素晴らしさをこのボランティアを通して学ぶことができました。(2年生男子)

第1学年宿泊学習

4月25～28日までの3泊4日の日程で新入生共同宿泊学習が行方市のレイクエコーで行われました。学校の授業時間と異なり、一時限65分と普段よりも長い授業時間で実施されました。初日は後半に集中力が続かないようでしたが、4日目になると、時間にも慣れ後半まで集中力を切らさず学習できるようになっていきました。中日にはカレー作りを行いました。クラス混合で行ったことで普段話さないメンバーとの親睦も深められました。朝から晩まで勉強に没頭することで、学習面での自分の足りないところ、基本的生活習慣の大事さを理解することが出来た有意義なものであったと思います。



平成27年度進学状況

医歯薬コースの卒業生は多くが医療系を目指し受験をしております。自分の能力を人の為に活かすため、進学先は妥協せず、毎年多くの生徒が難関大学に合格します。平成27年度に卒業した高校3年生72名と既卒生の進学状況は以下の通りです。

国公立大学

北見工業、秋田(理工)、山形(工)、茨城(農)、筑波(生物資源、理工、情報)、千葉(看護) 島根、琉球、青森県立保健、茨城県立医療、群馬県立県民健康科学、福知山公立 防衛医科(1次のみ)、防衛(1次のみ)

私立大学

いわき明星、東北医科薬科、国際医療福祉、日本薬科、神田外語、千葉科学、亀田医療 帝京平成、東京歯科、北里、杏林、慶應義塾、芝浦工業、順天堂、昭和、昭和薬科、帝京 東京医科、東京農業、東京薬科、東京理科、東邦、日本、星薬科、武蔵、武蔵野、目白 明治、明治薬科、神奈川、帝京科学、横浜薬科、近畿、同志社、同志社女子、川崎医療福祉、福山、第一薬科